

TOPICS
5

トピックス…⑤ 基幹的農業従事者の減少と高年齢化が同時進行 － 2020年農林業センサス結果 －

農林水産省が公表した「2020年農林業センサスの結果（確定値）」によると、わが国における農林業の経営体数は1,092千経営体で、5年前（2015年）に比べて312千経営体（22.2%）減少した。このうち農業経営体数は、1,076千経営体で21.9%減少しており、基幹的農業従事者の減少と高年齢化が同時に進行している。

農林業センサスは、農林業の生産構造、就業構造及び農山村等の農林業をとりまく実態を明らかにするとともに、農林行政の推進に必要な基礎資料を整備することを目的として、全国の全ての農林業経営体等を調査対象として5年ごとに実施している「基幹統計調査」である。わが国の農林業センサスは、1950年から5年ごとに実施しており、今回で15回目（林業センサスについては9回目）となる。

わが国の酪農経営体、とくに個人経営体（世帯で事業を行う経営体で、法人化して事業を行う経営体は含まない）においても、従事者の減少と高年齢化が同時進行しており、将来の担い手確保が喫緊の課題となっている。ここでは、わが国の農業における生産構造の変化を理解するため、農業経営体全体の実態をみてみよう。

1. 農業経営体数の推移

全国の農業経営体数（2020年2月1日現在）は1,076千経営体で、5年前に比べ301千経営体（21.9%）減少した。農業経営体のうち、個人経営体は1,037千経営体で同303千経営体（22.6%）減少した一方、団体経営体は僅かに増加した。増加する団体経営体においては、非法人団体が減少傾向にある中で、法人団体（農事組合法人、会社法人）は増加傾向にある（表1参照）。

2. 農産物販売金額規模別の農業経営体数

図1において農産物販売金額規模別に農業経営体数の増減率をみると、5年前に比べ3,000万円以上層で農業経営体数は増加した一方、3,000万円未満層ではすべての階層で減少した。とくに、農産物販売金額50万円未満層における減少と5億円以上層での増加が著しかった。以上のことから、農業経営体の減少が続く中で、法人化による規模拡大の進展が継続していることが分かる。

3. 年齢別の基幹的農業従事者数

農業経営体の太宗を占める個人経営体の基幹的農業従事者（仕事が主で、主に自営農業に従事した世帯員）は1,363千人で、5年前に比べ394千人（22.4%）減少した。年齢階層別にみると、もっとも減少したのは60～64歳層で、続いて75～79歳層、65～69歳層、55～59歳層の順であった。また、基幹的農業従事者の規模階層別の構成比は、5年前に比べて70～74歳層と65～69歳層での増大が著しい（図2参照）。以上のことから、基幹的農業従事者の減少と高年齢化が同時に進行していることが分かる。

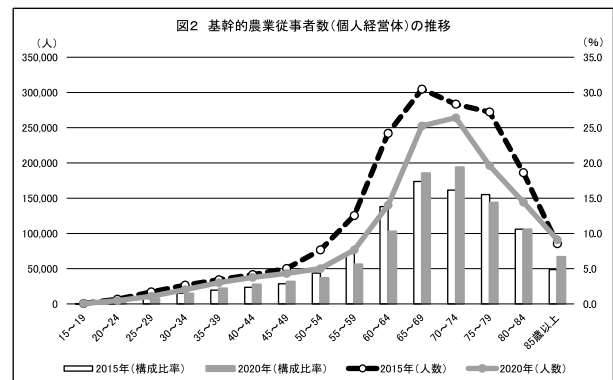
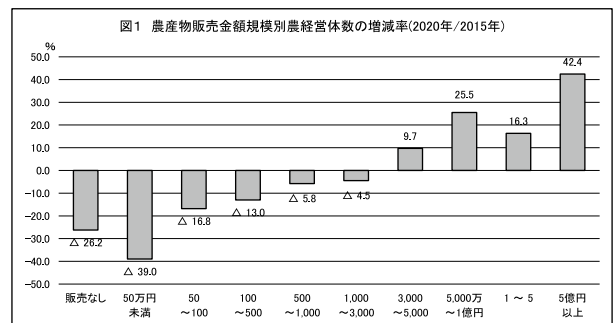


表1 農業経営体数の推移

単位：千経営体

	農業経営体計	個人経営体	団体経営体			
			非法人団体	農事組合法人	会社法人	その他
2010年	1,680	1,644	14	4	13	5
2015年	1,377	1,340	10	6	17	4
2020年	1,076	1,037	7	7	20	3
増減率 (%)						
2015年/2010年	△ 18.0	△ 18.5	△ 28.6	50.0	30.8	△ 20.0
2020年/2015年	△ 21.9	△ 22.6	△ 30.0	16.7	17.6	△ 25.0

注) 数値については表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。